

修論中間発表会

日時：2019年10月2日(水) 14時から

場所：東京外国語大学研究講義棟 422 (総合文化研究所)

—発表者・題目—

市野太音(トルコ)

トルコの短編作家オメル・セイフェッティンと「無力な少年」

豊口彩乃(ベンガル)

タゴール劇における「タクルダ」とは何か —戯曲『オチャラヨトン』を中心に

山本ゆみ(ベンガル)

現代バングラデシュ文学作家 ハッサン・アジズル・ホク (Hasan Azizul Huq) の小説
『火の鳥 Agunpakhi』 より～その結末について～

菊地圭祐(南アジア)

南アジアの宗教対立—アーリヤ・サマージとイスラームにおける神学上の争点について

新谷和輝(キューバ)

キューバ映画の公共圏 1960年代を中心に

中川美枝子(オーストリア)

エリアス・カネッティ作品にみる「目」の役割

— 小説『眩暈』のペーター・キーンの視覚と世界認識の分析

奥村文音(ロシア)

フレーブニコフの回文詩作品をめぐって

仲谷航(ロシア)

ロシア革命期の思想における観念論—建神主義とレーニン主義の共通項を探って

小林淳子(ロシア)

エドゥアルド・ウスペンスキー著『魔法の川をくだって』についての一考察
／現代ロシア児童文学における「民話のアダプテーション」という視点から(仮)

一般公開・入場無料・事前申込不要

主催：東京外国語大学総合文化研究所